

あさひの詩

白山市立朝日小学校
道徳だより NO.2

5月13日(月)から5月19日(日)に行われた親子道徳へのご協力、ありがとうございました。親子で言葉を交わす中で、様々な考えに触れ、道徳心の深まりにつなげていけたらいいですね。先日の親子道徳のふり返りでいただいた感想をいくつか紹介させていただきます。(感想は原文の掲載をさせていただいていますが、一部読みやすいように修正してあります)



1年生「げんきのもと」より

〈てらにし ここみさん親子〉

(子) やさいをつくってくれたおじいさんや えいようをかんがえてくれたひとに ありがとうのきもちをこめて いただきますと 言って たべます!!

(親) 子供達の給食のために、朝早くから野菜を収かしている事を知って、本当に農家の人達に感謝です。又おいしく料理を作ってくれている人にも感謝です。これからは、毎日の給食を残さずに、感謝を忘れずに食べてほしいです。



〈わかまつ かずまさん親子〉

(子) すききらいせず たべたいです。

(親) だれにでも にがてなたべものはあって それは わるいことではないとおもいます。ただ めのまえにある たべものは たいせつにする おもいと じかんをかけて つくられていて ちょうりされ それが みんなの げんきのもと いのちのもとに なっているの たべものが あたりまえにあるものではないこと にがてでも ありがとうのきもちで いただきたいね と おやかで さいかくにんしました。

2年生「たけしの「げんきあっぷカード」」より

〈林 かずはさん親子〉

(子) さいしょは、たけしさんが はやねはやおきして けんこうてきだなどおもったけど とちゅうから よんでみると、よふかししていたり よるおそくまでテレビを見て やっぱり はやねはやおきは、たいせつだなどおもいました。

(親) 早寝・早起き・朝ごはんは大切だということ、そしてそれを継続させることも大切という話をしました。元気に健康的に過ごせるようにたけしさんのように規則正しい生活をしようと思いました。



〈木戸 ゆいとさん親子〉

(子) さいしょはできていて三日めになったら できなくなって めざましがなっても おきなかった。学校でみんなのを見て まるがたくさんだったし じぶんもがんばろうとしていたのが いいとおもいました。

(親) 早ね、早おき、よいと思っていることでもつづけることはむずかしいけど、同じことをいっしょにがんばっているお友だちの行いから、また自分もがんばろうと思えたことがすごいね! おともだちのよいところはどんどん見ならおう!

3年生「命^{めい}どうたから」より

〈木滑 結月さん親子〉

(子)わたしは、この話を讀んだら せんそうはダメということわかりました。大切なみんなのいのちが うしなわれて いる むごいせんそうは くりかえしてしちゃダメということだから おきなわの人は強い思いで ねがいをこめて いるとわかりました。

(親)まわりの人でせんそうにあった人が少なくなってきた、話を聞いたりすることがへっている今、本をとおして、 命の大切さをわかってくれるだけでも大切だと思ひ、命あるものにやさしくむきあつてほしいなと思ひ。

〈馬谷 心結さん親子〉

(子)せんそうで小さいこどもや、おとながいっぱいしんじやつてくるしいなと思ひました。へいわの石じに20万人い じょうの名前がきざまれていると書いてあつてびっくりしました。いのちはとてもたいせつだし、生きたかつた 人もいるのに、その人にうけつがれたいのちをかんたんにするこゝとしてはずつたいダメだし、いのちはせか いの中でいちばん大じだとわかりました。

(親)子どもにふと、「戦争って何か知つてる?」と聞いたところ「知らない」といわれた。自分もその親も戦争をしらな い世代なので、またそういう話もしてなかつたのでしかたないと思ひました。戦争はとても悲しいものだし、あとに 残つたものも、誰かの幸せを奪つたうえにあるもので、とてもむなしいものだと思ひます。親子道徳であらためて戦 争の話ができるきっかけができて、ありがとうございます。小さなこどものケンカでも、暴力を使うと戦争とか わらない。親子でしっかり考えなければと思ひました。



4年生「ONE TEAM-日本代表-」より

〈南出 福翔さん親子〉

(子)相手にぶつかつてボールをうばつたり、すばやく動いて味方にパスをだしてトライやゴールをきめたから、チー ムはいいなかまだと思ひました。

(親)チームプレイは仲間を信用、信頼をして、気持ちを一つにして戦うことが大切。何かあつた時は皆で話合い、の りこえる事でお互いの理解を深めることができる。「福翔も柔道において同じことがいえるね。」と話しました。

〈林 愛華さん親子〉

(子)ONE TEAM は日本の勝利のために、ひとつになれるチーム。チームを強くするには、一人一人がチームを強く するにはどうしたらいいかを考えて、考えが合わない時は、たがいのいけんをぶつけ合う事で、チームは強くな ると思ひました。

(親)チームを強くするにはどうするかを一人一人考え、意見を出しあい、方向性を合わせる事でチームは強くなつて いく。これは集団や団体での活動にもあてはまる。誰かがやってくれるのではなく一人一人がやるべき事をやる 事で、信じ合う事が出来チームは良くなる。子供にはこんなチームを良くするには何をしなければならぬかを 学んでほしい。



5年生「七稲地蔵」より

〈中村 黄楓さん親子〉

(子)佐吉を初めに後からみんなが、声かけをがんばったから、米がやすくなって子供たちの命がすくわれたんだと思います。

(親)どの親も子供の命をまっ先に考えます。たとえ自分が犠牲になろうとも、子供達が助かる可能性があるならと声をあげた佐吉達のおかげで、子供達や、その後の世代の人々が生きていく事ができているのだと思いました。

〈越村 玲王さん親子〉

(子)自分がころされると思っても、だれかのためにいっしょうけんめい考えて、みんなをたすけれるのがすごいと思いました。ぼくはやろうと思ってもできないので、米をたべれることにかんしゃしようと思いました。

(親)一人の強い想いが多くの人々の心を動かし、大きな力となったことで、何かが変わると思いました。なかなかできることではないけれど、この力は小さなことでもいいので、自分も何かできたらなと思いました。



6年生「吾行く道を吾はゆくなり」より

〈竹島 汐莉さん親子〉

(子)姉に学業をすすめてもらい、姉のことを大切に思っていたけど、自分の気持ちが校風が合わないということで学校をやめていたことが、過去を引きずらずに、どんどん新しいことにちょうせんしていつてるのですごい人だと思いました。

(親)自身の勉学のために道を開いてくれた姉や父親の存在のあったことはあまり知られていなく、哲学者 西田幾多郎の成人になる迄がよく判りました。

〈田中 陽莉さん親子〉

(子)幾多郎さんは、ひといち倍つらく、苦しい思いをしているからこそその考えだと思いました。なぜなら、伝せん病による姉の死や、選科生だからという差別。自分だったら、あきらめ働き始めるけど、本や勉強をすることで苦しい環境を忘れられるという集中力から、幾多郎さんのような考えがうまれてきたんだと思いました。

(親)姉の死や選科生という心ない言葉や態度といった扱いを受けながらも、「なぜ勉強するのか」「何のために生きているのか」「人生とは」と問い続けることは、とても辛いものだったろうと思います。その中でだれよりも人の話を聞き、素直に批判をも受け入れたことが哲学を見出すことができたのだらうなと思いました。



それぞれの感想1つ1つから、しっかりと考えた事や感じた事、心が動いたことなどが伝わってきました。本当にご協力ありがとうございました。また、2学期もよろしくお願ひします。